

第4次庄内町食育・地産地消推進計画（庄内町6次産業化戦略）（案）に対する  
意見募集の結果について

令和8年3月24日  
庄内町

- 1 意見募集期間 令和8年2月26日（木）から3月23日（月）まで
- 2 意見提出人数 1人
- 3 意見提出件数 6件
- 4 提出意見と意見に対する考え方

番号	意見	意見に対する考え方
1	<p>①（P4）関連図からもわかるように、この計画は、食を通して、全ての町民が心身ともに健康で生活を営むことができる社会の実現を目指し、全町挙げて推進してきた計画であることを理解しました。しかし、時代とともに食をめぐる課題は複雑化し、この課題をみんなが身近にとらえ、解決することが何より大事です。</p> <p>令和7年3月発行（庄内町保健福祉課）、健康しょうない21計画（第4次）の資料のように、手渡し周知できるリーフレットを作成してはいかがでしょうか。</p> <p>また、年間を通し、毎月の広報で、折々の話題・内容を紹介したらいかがでしょうか。</p>	<p>住民に届きやすく伝わる情報発信の方法について検討していきます。</p>
2	<p>②（P6）食の安全マーク、（P8）持続可能な開発目標（SDGs）のマーク、（P11）食育ピクトグラム、私たちの生活のまわりには、いろんなマークが存在します。例えば、モバイルバッテリーには、PSEマークがあります。これらのマークは、子どもから大人、高齢者・障がい者の方も、わかるようなデザインになっております。</p> <p>せっかく、具体的な取組み7つ示されています。ぜひ、町民に浸透させるためにも、ひと工夫お願いします。</p> <p>「食の大切さ」「健全な食生活」「食に関する知識」を基本とし、「生きる力」「感謝する心」が育まれます。</p>	<p>1と同様です。</p>

3	<p>③庄内地方は、四季折々の食材に恵まれています。都心で生活した私には、本当に贅沢だと感じます。</p> <p>この地域の伝統的な行事と作法が結びついた食文化は、庄内町を全面に出せる大事な地域資源です。</p> <p>まずは地域住民が郷土料理や歴史を守り、後世へ繋ぐこと。学校給食でふんだんに食材を取り入れ、食育・文化を受け継ぐこと。その時代や需要にあった工夫が大事です。食のイノベーション（技術革新）。</p>	<p>地域団体や学校と連携して、食育や文化継承に取り組んでいきます。</p>
4	<p>④私は、地域資源である食を通し、観光資源やふるさと納税の商品開発、農業体験、移住体験、保育園留学等、いろんな取り組みができると考えます。町の関係人口や「庄内町推し活」ファンづくりに繋がります。</p>	<p>関係組織と連携し、実現可能な取り組みを進めていきます。</p>
5	<p>⑤町は、茨城県境町に職員を派遣（令和8年度予算計上）し、ふるさと納税の開発に取り組むとのことです。</p> <p>他を知ることも大事ですが、わが町の地域資源をしっかり分析し、町全体でアイデアを募集し、商品開発や地域の人材を後押しすることは、町の活性化や魅力ある町づくりに繋がるのではないのでしょうか。</p> <p>スーパー店頭と並ぶ、四季折々の野菜や果物のネーミング、見るだけでもとても勉強になります。ちなみに、茨城県は「夢みる野菜」です。また、消費者は、県内産や地野菜に敏感です。（知っているという事です）</p>	<p>外部事例の学習と並行して、関係組織と連携し取り組んでいきます。</p>
6	<p>⑥庄内町新産業創造館「クラッセ」、立谷沢川流域活性化センター「タチラボ」、産直（風車市場・あつでは）</p> <p>多数の商品開発・販売がされています。庄内町として、推奨商品マーク、認定番号のようなものありますか。</p> <p>伝統野菜、郷土料理、6次産業化された新商品、副産物、町として防災備蓄品の開発、発想を変えては！</p>	<p>推奨商品マークや認定制度については、現在整備していません。</p>